

## A14c HETE-2 衛星搭載広視野 X 線モニター (WXM) 応答関数の機上較正

山崎 徹、吉田 篤正、中川 友進 (青学大理工)、河合 誠之、坂本 貴紀、鈴木 素子、浦田 裕司、佐藤 理江、山本 佳久 (東工大理)、松岡 勝 (JAXA)、白崎 裕治 (国立天文台)、玉川 徹 (理研)、鳥居 研一 (阪大理)、G.Ricker(MIT)、他 HETE-2 チーム

ガンマ線バースト探査衛星 HETE-2 搭載の広視野 X 線モニター (WXM) は同一構造をもつ 4 台の一次元位置検出型比例計数管、及び垂直な方向に配置した符号化マスクからなっている。WXM は 2-25keV のエネルギー範囲をカバーし、 $60^\circ \times 60^\circ$  の視野、検出器は垂直入射 X 線に対して  $\sim 350 \text{ cm}^2$  の有効面積をもつ。

WXM の応答関数 (DRM) は合計 12 本の陽極芯線毎に、打ち上げ前の地上較正実験に基づき構築された。打ち上げ後は、かに星雲の観測データを用い、応答関数の較正を続けている。

本講演では、3 年間に及ぶ WXM の機上較正結果、さらに HETE-2 衛星搭載のガンマ線検出器 (FREGATE : エネルギー領域 6-400keV) とのクロスキャリブレーション結果について報告する。